



インターフェイスの改善に意外な援軍
音の出るディスプレイ装置
[サウンドウィンドウ]

メーカー 松下電器産業(株)
URL www.panasonic.co.jp

慣れというのは恐ろしい。ディスプレイの脇にあるスピーカーから声が出ていても、画面の中にいる人物がしゃべっていれば、当然その人物の場所から音が聞こえてくる、と思ってしまうのが人間というもの。しかしそうした理解は簡単にいえば錯覚。実際にはそのギャップを補償するために頭が疲れていく。ああ、なんかすっきりしたい……そんな悩みを吹き飛ばすのが、松下が開発中の透明スピーカー「サウンドウィンドウ」。なんとディスプレイスクリーンをカバーする透明なパネルを空気圧で振動させ音を出す。このおかげで無理なく音と映像のアンサンブルを楽しむことができる。いや、そんなことより注目したいのは、これをタッチパネルに組み込むというアイデア。表示されたボタンに触ったとたんにブルブルと振動が伝わったり、音と同時にボタンの形が変化したり……なんて、ひと皮むけたリアルなインターフェイスも実現できるのだ。

(今泉洋 / 武蔵野美術大学デザイン情報学科教授)



ここにもやっとデジタルの波、双眼鏡型デジタルカメラ [PENTAX DIGIBINO DB100]

メーカー 旭光学工業(株)
URL www.pentax.co.jp

「液晶モニター搭載デジタルカメラ機能付き双眼鏡」と銘打たれたこのプロダクトは、双眼鏡でのぞき込んだ風景や被写体をそのまま撮影できるというもの。有効画素数80万画素。高速シャッターや連続撮影機能を搭載して「見ながら」「見たまま」の撮影に的を絞っている。水面から飛翔する白鳥のコマ送り映像なんて感じのものが気軽に撮れてしまうのだろうということは想像に難くない。上部に付いた液晶モニターは、撮影した画像を閲覧するほか、普通のデジカメと同様に撮影用のビューワーにもなる。双眼鏡デジカメ、顕微鏡デジカメは出揃ったから、次はいよいよ望遠鏡デジカメが登場しそう?

(クワクポリョウタ / デバイスアーティスト)



こんな開け方、まだあったのか 新鮮な驚きを呼び起こす一品 [Motorola V70]

メーカー Motorola Inc.
URL www.motorola.com

リストウォッチのように、誰でも持ってあたりまえのプロダクトは、魑魅魍魎、さまざまな趣向を凝らしたストレンジモデルが現れて僕たちの購買欲をそそる。携帯電話はといえば、昨年はじめて販売数が減少したそうで、ついに1人1台時代が達成されてしまったことを物語る。そろそろギミック勝負の変わり種が現れても良い時期だ。もっとも、未来永劫に基本機能の変わらない腕時計と、機能と仕様のモディファイを繰り返す運命にある携帯電話とは事情が違ってくると思うが、海外ではこんなモデルも登場している。はたしてこれが使いやすいかどうかはこの際問わないでおきたいが、ねじりフリッパー方式という発想は、ケータイのカタチにまだ洗練の余地があることを教えてくれる。

(クワクポリョウタ)



ビジュアルワールドにジャックイン
プラネタリウム直系のディスプレイシステム
[臨場館]

メーカー (株)五藤光学研究所
URL www.goto.co.jp

その昔20世紀.....といっても実は数年前.....書齋にガレージ、そしてホームシアターというのがいわゆる" 男の城 "の定番だった。そして今、21世紀のお父さんの夢は大型ディスプレイシステム" 臨場館 "。スクリーン、プロジェクター、コンピュータ、再生装置、音響装置を兼ね備えたドーム型のスペース.....プラネタリウムの世界ではその名を知られた五藤光学が開発した究極のビジュアル体験装置なのだ。もはやお馴染み50インチのプラズマディスプレイでは我慢できない。HMT(ヘッドマウントディスプレイ)みたいに5センチ先のバーチャルリアリティーでも満足できない。そんなマニアに、平面スクリーンでは実現不可能な左右120度、縦90度、両眼の視界をすべて映像で埋め尽くす、圧倒的なリアリティーを提供する。(今泉 洋)



タイピングする指の動きをキャプチャー 冗談みたいなバーチャルキーボード [The Virtual Keyboard]

メーカー VKB Inc.
URL www.vkb.co.il

たかがキーボード、されどキーボード。マウスやペンが登場しても、やっぱり確実便利な文字入力ではキーボードに勝るものなし。ただ背中丸めて小さな端末相手に、親指で小さなポッチを子マツマやるのもなんだかなあ……と思っている人は多い。というわけで、これまでこの欄ではキーボードに対する飽くなき挑戦の数々を紹介してきたが、どうやら真打ちの登場か？ 先頃ハノーバーのCeBITで発表されたこの製品、小さなプロジェクターを使って手元の平面にフルサイズのキーボード画像を投影し、この上を指でタイピングすることで文字を入力できるという、画期的なバーチャルキーボード。モーションキャプチャー技術をゲームマシンに取り込み、ダンスマシンでひとヤマ当てた日本の企業も、ここまでは想像できなかったか？

(今泉 洋)



何にでも吸い付く音のコバンザメ 機動力を増して海の向こうより到来 [SOUNDBUG]

メーカー Olympia Europe GmbH.
URL www.soundbug.biz

スピーカーは電気信号を物理的な振動に変えるアクチュエーターと、振動を効率よく空気振動に変えるコーン紙や胴体から構成されている。"SoundBug"は前者の機能だけを内蔵し、後者の機能はそのへんにあるものを流用してしまうという、まさに「音の寄生虫」だ。タコチュー(古い!)みたいな吸盤をテーブルなどに密着させるとスピーカーに早変わりしてしまうのだ。昔、日本のメーカーも同様の製品を出していたが、ネジで設置する仕組みになっており、どちらかという部品のようなものだった。それに比べるとこちらは吸盤を使っており、簡単に取り外しができるので、あちこちに取り付けてみたくなる。ウェブサイトの紹介デモでは、キッズたちが頭に付けて遊んでいるムービーが見られるが、さすがにそれはやらない方が良さそう。

(クワクポリョウタ)

PRO'S Products

JUNE



「プレゼン命」の国生まれ
Bluetoothがオーバーアクションにも対応
[Cordless Presenter]

メーカー Logitech, Inc.
URL www.logitech.com

「プレゼンか、さもなくば死か」というのは某メディア研究所のあまりに有名なスローガン。だがこのセリフ、今やアメリカのビジネスシーンの常識なのかもしれない。そんなプレゼンにマジな国では、曖昧な国ニッポンからは想像できないようなツールが出てくることがある。たとえばこのコードレスプレゼンターという代物。早い話がUSBとBluetoothをサポートしているマウスなのだが、レーザーポインターとカスタマイズできるボタン2つを装備して、ウィンドウズXP、Me、2000、98に対応。10メートル離れたコンピュータの画面(といっても当然プロジェクターにつながれているわけだが)をBluetoothマウスで自由にコントロールして、スクリーンの前を歩きながらレーザーポインターで要点を指し示す、なんていうプレゼン芸にびったり。もちろん普通のコードレスマウスとして使える。(今泉 洋)



軽薄短小の美学に負けない省エネ活力
名刺サイズの超小型デジカメ
[eyeplate]

メーカー 富士フイルムアクシア(株)

URL www.axia.co.jp

軽薄短小は良いことだというのはわかるが、せっかくメモリー部分をメカ方式から半導体に変え、モーターを廃して小さく仕上げて、電池寿命がMD以下なんてMP3プレイヤーは本末転倒、幻滅至極。しかし本体が6mmという世界最薄を追求しながら、有効画素数31万のCMOSセンサー搭載、内蔵の8MBフラッシュメモリーで最大101枚(320 x 240)の撮影が可能という名刺サイズのデジタルカメラ"eyeplate"にはナットク。パソコンとの接続(ウインドウズ、マッキントッシュ双方に対応)はお約束どおりUSBだが、USBでデータ転送をしている間に内蔵のリチウムイオン充電機に充電できてしまうというのがなんとまあえらい。ハイテクガジェットもある程度まで先が見えてきたら、まじめに素材に取り組むメーカーが優位という見本かもしれない。(今泉 洋)



コンニャクとまではいきませんが……
手軽に持ち歩けるトランスレーター
[PhraseLator]

メーカー VoxTec LLC.

URL www.phraselator.com

音声入出力の機能を持つ翻訳機。登録された1000語程度のフレーズとマッチングを行い、該当する訳語を出力する。文法の解釈ではなく、フレーズ単位で識別するというのが特徴。スタンドアロンなので携帯電話を使用した音声翻訳システムに比べると機能は限定されるが、簡単な日常会話はこれで事足りそう。形状はPDA然としている。機能の性質上これは人様との接点となるのだから、失礼のないように、もうちょっと気の利いたデザインを心がけた方がよいだろう。素人考えたが、1000語程度の識別なら、もっとチープなシステムで実現できないだろうか。そしてプロセッサがもっと安くなり、3,980円くらいで空港のショップで売られたりするとバカ売れ間違いなし!……というのはちょっと無理な話か?

(クワクポリョウタ)



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp